

宇都宮市北部農村地域の大谷石建物における営みとそのネットワーク 栃木県宇都宮市を中心とする大谷石建造物に関する研究 (14)

大谷石 農村 営み
類型 ネットワーク

正会員 ○二瓶 賢人* 同 安森 亮雄**
同 大嶽 陽徳** 同 小林 基澄***

1. 序 市北部の農村地域では日常の生活や農作業などの営みの中で大谷石建物が利用されている。それらは使い方に応じた改変や様々な要素がみられ、農地や敷地全体との関わりの中で成立している。そこで、本編ではまず前編で導き出したカスタムタイプと営み要素、建物類型の関係の特徴を明らかにする。さらに敷地において他の建物や農地との関係を検討することで、大谷石建物における営みとそのネットワークの特徴を明らかにすることを目的とする。

2 大谷石建物における営み

2.1 営み要素 営み要素は、日常生活で利用される「生活」と農作業で利用される「仕事」に大別できる(表1)。また、それらは普段は建物に収納され使用時に他の場所に移動される「収納要素」と、その場で使用される「使用要素」に分けられ、全体として仕事の収納要素が多い。生活の収納要素は自動車などの乗り物が多く、半数以上の建物でみられた。使用要素は台所や洗濯などの家事に関するものや、家具や本、楽器などの生活道具、トイレが多い。次に仕事の収納要素は農業が中心のため様々な農具や、トラクターやコンバインなどの農業重機、肥料が多くみられた。使用要素は穀物の水分量を調整するための大型の乾燥機や作物を貯蔵する保冷庫など農業の行程に関係するものが多い。また、底下で農作業の合間に休憩したり作物の仕分けをしたりする椅子と机のセットも一部みられた。

2.2 カスタムタイプと営み要素及び建物類型の組合せ

前編で抽出した建物のカスタムタイプに、営み要素と筆者らによる既報^{文1,2,3)}において導き出した建物類型を重ねて検討した(表2)。まず、外部庇付加型(I-1)は平屋積石納屋(B)が多く平屋腰積石納屋(D)の半数近くが集中している。営み要素は、自動車や農具が多く、収納中心のタイプといえる。外部庇ヴォリューム付加型(I-2)は2階積石納屋(C-1)が最も多く、次に平屋積石納屋(B)が多かった。外部のヴォリュームには台所や洗濯物、高さのある乾燥機が配置され、外に伸びたホースから糞殻が排出されていた。また、底下には農業重機が比較的多くみられた。内部は収納、外部では家事や農作業が行われる、生活と仕事の両方で広く利用されるタイプである。外部庇統合型(II)は、2階積石蔵(C-2)や2階張石蔵(A)といった蔵が多く、庇によって納屋と統合されていることが多い。営み要素は農具が大半で、農業の収納が中心のタイプといえる。外部庇付加・内部室型(III-1)は平屋積石納屋(B)が多く、内部の室にトイレが設けら

れている。また、底下は自動車や農業重機の駐車スペースとして利用されている。外部庇ヴォリューム付加・内部変更型(III-2)は納屋と離れの複合建物(C-3)と2階積石納屋(C-1)が多く、内部の改変は離れの用途に対応している。生活の営み要素では生活道具が特徴的で、仕事の要素では農具の他に農業重機や保冷庫が内部や底下にあり、外部のヴォリュームには乾燥機が置かれていた。離れの利用と作物の加工や保管などの農作業を行うタイプである。以上のように、営み要素や建物類型と関係しながらカスタマイズがなされている。

3. 敷地における大谷石建物と営みのネットワーク

前章までに検討した大谷石建物における営みが、敷地ごとに他の建物や農地とどのような連携をしているか整理し、その組合せを検討することで、6つの営みのネットワークタイプを見出した(表3)。まず、独立して利用される建物のみのタイプ(①独立型)では、収納用途のみの外部庇付加型(I-1)や外部庇付加・内部室型(III-1)が多く、敷地内に1棟しかないものが大半である。大谷石建物が母屋と生活の側面で連携しているタイプ(②生活連携型)は、比較的数量が多く、外部庇ヴォリューム付加型(I-2)が台所や洗濯物等の生活の要素を介して連携したり、収納やトイレとして利用される外部庇付加・内部室型(III-1)の建物がみられる。大谷石建物と農地が仕事の側面で連携しているもの(③仕事連携型)では、外部庇ヴォリューム付加型(I-2)が多く、収納のみの蔵と農作業で利用される納屋が統合された外部庇統合型(II)もみられた。次に、複数と仕事で連携しているもの(④仕事複数連携型)では、農地や鉄骨造の納屋などと農作業で連携しており、外部庇付加・内部室型(III-1)や外部庇ヴォリューム付加型(I-2)の建物がみられた。複数の建物が母屋や農地と単体で連携するもの(⑤生活仕事連携型)では、母屋とは生活要素で連携する外部にヴォリュームのみが付加された建物が多く、農地とは仕事で連携する外部庇統合型(II)の建物が多い。その他に収納用途のみで利用される外部庇統合型(II)が多かった。利用が生活と仕事の側面で分かれるタイプといえる。最後に、1棟の大谷石建物が複数の対象と生活や仕事の側面で連携するものである(⑥生活仕事複数連携型)。このタイプは全体の中で最も多くみられ、納屋と離れなどの複数の用途が複合した外部庇ヴォリューム付加・内部変更型(III-2)が多く、母屋とは家事や離れへの滞在などの生活において連携しており、農地や他の建物とは米等の作物の加工や保管をする仕事において

表7 営みの要素

生活 (250)								仕事 (262)							
収納 (135) ▲				使用 (115) □				収納 (184) ▲				使用 (78) ■			
自動車(動)	バイク(バ) 自転車	タイヤ 家財 薪干(他)等	台所、水場 (台)	洗濯物、竿 (洗)	生活道具 (生)	トイレ(ト)	石油タンク ガスボンベ ベンチ 漬物(他)等	農具(農)	農業重機 (重)	肥料(肥)	工具 資材 脚立 長靴(他)等	乾燥機(乾)	保冷庫(保)	机・椅子 (机)	選別機 穀櫃 黑板 苗(他)等
56	37	25	18	20	17	23	54	86	34	19	45	22	24	19	21

